

見直し提案に対する地質学会の回答(案)が示された。提案内容には賛成し、またこれまで以上にJABEE活動を活発にするための意見、質問等を付記して回答する。

9) 学会公式SNSの運用規則・体制について(小官理事)

学会公式SNSアカウント、若手アカウントの運用規則・体制について、ニュース誌・メールマガジン・ホームページを合わせて検討された運用規則案が示され承認された。SNSの若手アカウントは自由に書いてもらうことを想定しており、担当者は広報委員会が選出する複数名を想定している。若手以外の場も提供して欲しいという要望もあった。

10) 学会活性化に関わる会費などの変更について(佐々木理事)

9月11日の理事会の審議(学生・シニア層の位置付けを明確にし、学生層の入会を促し、シニア層の入会を継続するため会費変更などの施策の導入が必要)のもと、最近の会員動向について説明があった。続いて、正会員の学生・院生会費割引制度を廃止し「学生会員」として新たな会費額を設定する、2年・3年バック制会費の導入、大会参加費の見直し・発表料の導入、在会年数に応じた会費減額などの変更案が示され、承認された。今後ニュース誌等で会員に周知・説明を行いながら、必要な規則改正の手続きを進める。また本件に関連して、学会加入者のメリット向上のための会員と非会員の差別化、社会人学生の扱い、入会手続きのオンライン化について要望が出された。シニア層の会費一括払い割引については、財政に与える影響が大きいため導入しない。また、公益社団法人化については以前も検討したが、メリットよりも事務作業等負担増のデメリットが大きく、地質学会には適していない。会費未払い者に対する督促強化とペナルティの厳格化について意見があった。

11) 表彰制度の見直し(その2)(磯崎会長)

国際賞、ナウマン賞をそれぞれ都城秋穂賞(Akiho Miyashiro Award)、H. E. ナウマン賞(H. E. Naumann Award)に変更、受賞対象論文の期間変更、フィールドワーク賞の新設、ジュニアセッションの詳細明記、永年会員顕彰の時期の変更(40年から10年ごと)の提案があり承認された。学術大会口頭発表の賞については検討中である。

監事報告

岩部監事より以下のコメントがあった。

ショートコースが学生・社会人の教育に役立っているが、技術者向けの会員サービスのさらなる充実をお願いしたい。社会人技術者にとってCPDは継続的な研鑽という意味合いから重要であり、イベントを通じて情報収集ができれば学会、会員双方にメリットがある。山本監事より以下のコメントがあった。

会費等の変更は学会の存亡に関わるきわめて重要なことで、さらに細部を検討して欲しい。また、会員への周知も必要である。公益

社団法人化については税法上の管理が厳しく、本学会としては一般社団法人が適していると考える。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2021年12月28日

理事：議長 山口飛鳥
理事：副議長 納谷友規
代表理事：会長 磯崎行雄
理事：副会長 佐々木和彦
理事：副会長 平田大二
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名(省略)

2021年度第6回執行理事会議事録

日程：2021年11月13日(土) 13:00-18:50

【WEB会議】

出席：磯崎・佐々木・平田・中澤・岡田・緒方・亀高・坂口・小宮・辻森・星・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋、岩部(監事)、竹下理事(審議事項1)、笠間理事(審議事項9)

欠席：ウォリス

事務局 澤木

*定足数(過半数：9)に対し、17の出席

*前回議事録(21-5回)確認

報告事項

1. 全体的報告

・学会運営検討タスクフォース：会員種別、会費の変更について(佐々木)(→審議事項へ)

2. 運営財政部会(緒方・亀高)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・第9回国際地学教育会議(2022/8/22-25)の後援依頼があり承諾した。

・第37回ゼオライト研究発表会(2021/12/2-3)協賛依頼があり承諾した。

・山田科学振興財団2022年度研究援助候補推薦依頼(学会締切：22/2/4)

【→geo-flash,ニュース11月掲載】

・蒲郡市生命の海科学館より、第11回、12回惑星地球フォトコンテスト入選作品展(22/1/21-4/10)への共催依頼があり承諾した。

・藤原ナチュラルヒストリー振興財団設立40周年記念公開シンポジウム「海と地球の自然史」開催報告(地質学会後援、10/24開催、於仙台国際センター、参加者160名(オンライン125、会場参加35))

<会員>

1. 今月の入会者(2名)

正会員(2名)：園田研之、鈴木俊之(除籍再入会)

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者(2名)

名誉会員(1名)：糸魚川淳二(逝去日：11月11日)

正会員(1名)：鳥居昭三(逝去日：10月25日)

4. 2021年10月末会員数

賛助：27、名誉：40、正会員：3297[内訳正：3173、院割：116、学部割：8]合計3364(昨年比-75)

<会計>

特になし

<その他>

・クラウド会員管理システムについては、顧問弁護士の参考指摘に基づき契約書案の微修正を進め、WS社からの返答待ち。

・有期雇用事務職員の2022年の継続雇用について：2021年現在、週3日勤務として有期雇用事務職員を1名雇用しているが、2022年も通常事務の他に地雑電子化、会員管理のクラウド化、対面学術大会(想定)での事務も想定しており、2022年時も継続雇用することとする。

3. 広報部会(坂口・小宮)

1) 広報委員会(坂口)

・フォトコンテスト応募受付開始(後援：深田研ジオ鉄普及委員会、JGN 協賛：(株)ウィンディーネットワーク)。締切22/1/31。

・ジオルジュ2021年後期号発行。8500部印刷。2500部を地学オリンピック参加者へ配布予定。

4. 学術研究部会(辻森・ウォリス・星)

1) 行事委員会(星)

・2022JpGU大会において次の地質学会共催セッションを提案した。(1地球史解説：冥王代から現代まで/2. 変形岩・変成岩とテクトニクス/3. 岩石・鉱物・資源/4. 火山・火成活動および長期予測/5. 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動/6. 日本列島および東アジアの地質と構造発達史/7. 活断層と古地震/8. 湿潤変動帯の地質災害とその前兆/9. Introduction to forensic geoscience/10. 冷湧水・泥火山・熱水の生物地球科学/11. Evolution and variability of the Asian Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era/12. 人間環境と災害リスク/13. ジオパーク)

・第130年学術大会(2023年京都大会)は、京都大学吉田キャンパスで開催予定。2023年9月17日(日)~19日(火)の3日間を予定し、LOCが会場予約を進めている。会場費が150万円/3日見込み。2022年東京・早稲田大会は無料の予定。

2) 専門部会連絡委員会(辻森)

・部会役員の交代

岩石部会(部会長：河上哲生、広報：吉田健太、行事：遠藤俊祐)/堆積地質部会

(部長：田村 亨)

- ・地質環境の長期安定性研究委員会と環境地質部会の合流スケジュール：来年4月理事会へ提案，2022年4月新部会の発足予定。
- 3) 国際交流委員会 (ウォリス)
 - ・IGC 2024の巡検について韓国との交渉を継続するための日程を調整中。
 - ・中止となったIGC2020 (インド) の参加費払戻等事後処理について，周辺の関係者から情報を聞き，今後の状況に留意する。
- 4) 地質標準化委員会 (辻森)
特になし
- 5) 編集出版部会 (大藤・狩野)
 - 1) 地質学雑誌編集委員会 (大藤)
 - (1) 編集状況報告 (2021年11月10日現在)
 - ・2021年投稿論文：39 [内訳] 論説20 (和文19, 英文1), 総説2 (和文2), レター6 (和文6), 報告3 (和文3), ノート3 (和文3), 口絵4 (和文2, 英文2)
 - 査読中：21, 受理済み：3
 - ・127巻10月号：論説4, 口絵1 (53ページ) 発行済み
 - ・127巻11月号：論説1, レター2, ノート1, 口絵1 (約40ページ) 校正中
 - ・127巻12月号も数編受理原稿が確保できたため，欠号することなく発行の見込み。
 - (2) その他
 - ・地質学雑誌電子版投稿編集出版規則の「細則3」(オンデマンド版，別刷等の価格設定ほか) について (→審議事項)
 - 2) アイランドアーク編集委員会 (狩野)
 - ・編集報告があった。昨年比で投稿数が約半分程度まで落ち込んでいる。学術大会で開催されたトピックセッション世話人などに特集号投稿を積極的に呼びかけていく。
- 3) 企画出版委員会 (小宮)
特になし
- 6) 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)
 - 1) 地学教育委員会 (高嶋)
特になし
 - 2) 地質技術者教育委員会 (佐々木)
 - ・2021年度版キャリアビジョン誌は申し込みを11/15まで延長した。72社から申し込みがあった。
 - ・第2回JABEEシンポジウムを企画中 (zoom, 2022年3月6日開催予定)。JABEE校5校より話題提供を予定している。
 - ・その他，委員会HP情報更新等，委員会活動の内容が報告された。
- 3) 生涯教育委員会 (矢部)
 - ・ニュース誌に改めてコーナーを設けて，博物館の情報を継続して発信することを検討中。毎年学術大会開催支部の館を中心に年間計画を立てて掲載していきたい。2022年は関東エリア (支部) を予定。
- 4) 地震火山地質子どもサマースクール (松田)
 - ・来年 (2022) のJPGUに以下の内容でセッションの申込を行った。
通常セッション (教育，アウトリーチ)
セッション名：地震火山地質子どもサマース

クルのこれまでとこれから

- コンビナー：柴田伊廣 (文化庁)
- 共同コンビナー：松原 誠 (防災科研)，横山 光 (北翔大)，松田達生 (工学気象研)
- 5) 地質の日 (矢部)
 - ・2022年5月開催予定の街中ジオ散歩の企画について，12月より検討開始予定。
- 7. その他執行政理事会の下に設置される委員会
 - 1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)
特になし
 - 8. 理事会の下に設置される委員会
 - 1) ジオパーク支援委員会 (委員長天野：代理平田)
 - ・次回理事会で委員の追加 (山下浩之会員：神奈川県立生命の星・地球博物館) と委員会規則改正を提案予定。
 - 2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)
 - ・第14回日本地学オリンピックはまもなく，応募締切 (11/15締切)。
 - 3) 支部長連絡会議 (平田)
 - ・代議員選挙立候補状況が低調なため，支部長を通じて各支部に積極的に立候補を呼びかけている。
 - 4) 地質災害委員会 (松田)
特になし
 - 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)
 - ・次年度の名誉会員推薦委員会委員について (→審議事項)
 - 6) 各賞選考委員会 (中澤)
 - ・12月1日締め切りで2022年度学会各賞の募集中。
 - 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長堀 利栄)
 - ・8月開催の座談会報告をニュース11月号に掲載予定。
 - 8) 連携事業委員会 (中澤)
特になし
 - 9. 研究委員会
 - 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長吉田英一)
特になし
 - 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)
特になし
- 審議事項
 - 1. 地質学露頭登録制度とホームページの作成について (竹下)
竹下理事より，野外地質学の大学授業の充実をはじめとする地質学の教育と普及を目的として，地質学露頭の登録制度が提案された。地権者への許可や登録のための審査体制，クレジット等々課題はあるが，趣旨には概ね賛同された。12月理事会で方向性を提案し，具体的な検討は竹下理事を中心としたTFを立ち上げたい。また，地権問題がクリアされている事例 (露頭) を10-20程度あらかじめ選んで学会でひな型を作る，地質学雑誌に「露頭紹介」という新カテゴリーを設ける，など制度実施に関わる具体的なアイデアもいくつかあった。

- 2. JpGU2022での「地質学露頭紹介」開催について (星)
 - 2021名古屋大会追加企画として実施された「地質学露頭紹介」が好評であった。JpGU2022でも地質学会主催イベントとして開催する方向で承認された。JpGUとの共催や言語 (日本語での実施が望ましい) やオンラインでの実施等をJpGUに確認することとした。
- 3. 会員名簿の発行と会員カードについて (緒方)
総務委員会での検討の結果，紙媒体の会員名簿は作成しないことを次回理事会に提案する。またweb上で公開希望の会員情報を確認できるようにするなど，これまでの名簿機能を損なわない対応を検討する。また，新規入会者への配布のため，会員カードを500枚程度増刷することが了承された。創立125周年記念ロゴなどは外したデザインに変更する。会員カードの機能は，将来的にはアプリと併用することなども検討していく。
- 4. 地質学雑誌電子版投稿編集出版規則の「細則3」(オンデマンド版，別刷等の価格設定ほか) について (大藤)
雑誌完全電子化に伴うオンデマンド冊子や別刷の価格を含む細則案が提示された。次回理事会で審議する。なお，オンデマンド冊子の作成は，会員向けサービスとして実施する。非会員向けは想定していない。
- 5. 名誉会員推薦委員会委員について (佐々木)
階層別委員の候補案が提案され，原案通り了承された。
- 6. JABEE地球・資源分野運営委員会の運営見直し提案への回答 (佐々木)
技術者継続教育委員会にて見直し案が検討され，提案内容に賛同する方針。加えて，規則案への語句の微修正の指摘やこれまでの運営委員のボランティア対応などいくつかコメントを付した回答案を次回理事会で審議する。
- 7. 会長及び副会長立候補に対する意向調査のウェブ利用について (中澤)
2022年度代議員選挙が無投票の場合，会長・副会長意向調査は，WEB投票システムを利用することが了承された。意向調査は「選挙」ではないので現行規則のまま投票方法の変更は可能。
- 8. 2022年早稲田大会の大会テーマ・キャッチフレーズについて (笠間)
大会LOC笠間理事より，大会テーマとキャッチフレーズそれぞれの案について説明があった。特定の大会テーマを定めることは，多種多様な研究内容が議論される学術大会には相応しくない。LOCハイライトなどの位置づけではどうか。キャッチフレーズは「関東の地下」の部分をもっと包括的な文言にしたらどうか？再度LOC内で検討していただくこととなった。
- 9. 「広報メディア編集申し合わせ」の提案 (小宮)

広報委員会より、学会公式SNSを含む広報メディア（ニュース誌、メルマガ、HP、SNS、YouTubeなど）の運用・体制に関する申し合わせ事項が提案された。免責事項表示も含め、体裁を整えて理事会提案。

10. 会員種別、会費の変更について（佐々木）
学会運営TFの検討結果が取りまとめられ、会員種別、会費の改定案が提示された。次回理事会で審議する。

11. 今後の学術大会の開催時期について（星）
学会ECS懇親会から執理事会宛て提案の一つであった。学術大会の開催時期の再考について、議論した。学術大会は9月開催が慣例となっているが、9月は他学会も多くバッティングを避けたい。ただし巡検実施には秋が最適のため、9～11月の範囲で開催地の条件、状況に応じて適宜調整することが望ましい。開催時期が年により異なるが、3年程度先まで開催場所・時期まで決めて早めに公表することで、参加者の不便を回避する。

12. 表彰制度の見直し（その2）について（磯崎）

磯崎会長より、国際賞の名称や候補の対象期間延長を含めた表彰制度の見直し案が提案された。2021年度総会で運営規則の改正をしたばかりでもあるため、推薦時の混乱を避けるため、一部修正して次回理事会で審議する。

13. 理事会審議事項の確認

①2021年度事業実績概要（案）

②2022年度事業計画骨子（案）

③2022年度総会の日程

④地質学露頭登録制度とホームページの作成について

⑤会員名簿の発行について

⑥地質学雑誌電子版投稿編集出版規則の「細則3」（オンデマンド版、別刷等の価格設定ほか）について

⑦名誉会員推薦委員会委員について

⑧ジオパーク支援委員会委員の追加

⑨JABEE地球・資源分野運営委員会の運営見直し提案への回答

⑩学会公式SNSの運用規則・体制について（「広報メディア編集申し合わせ」の提案）

⑪会員種別、会費の変更について

⑫表彰制度の見直し（その2）

以上

2021年12月11日

一般社団法人日本地質学会執理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

2021年度第7回執理事会議事録

日程：2021年12月11日（土）10:00～12:00

【WEB会議】

出席：磯崎・佐々木・平田・中澤・岡田・緒方・亀高・坂口・小宮・辻森・星・大

藤・狩野・松田・矢部・高嶋・ウォリス、岩部（監事）、山本（監事）

欠席：なし

事務局 澤木

*定足数（過半数：9）に対し、17の出席

*前回議事録（21-6回）確認

報告事項

1. 全体的報告

・今年2月に文部科学省共同利用・共同拠点認定および継続申請のための要望書提出依頼のあった東京大学大気海洋研究所、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、名古屋大学宇宙地球環境研究所より、申請結果の報告があった。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・公益財団法人三菱財団2022年度助成金公募の案内【→ニュース12月号、geo-flash掲載】

・第36回地質調査総合センターシンポジウム「3次元で解き明かす東京都区部の地下地質」（22/2/25、オンライン開催）への後援依頼を承諾した。

・「原子力総合シンポジウム2021」（22/1/17、オンライン開催）への協力依頼があり、後援として承諾した。

<会員>

1. 今月の入会者（2名）

正会員（1名）：可見智美

正（院割）会員（1名）：飯岡尚子

2. 今月の退会者（1名）

正会員：トイ バージニア

3. 今月の逝去者（正会員2名）

田中久雄（逝去日：2021年11月21日）、榊原雄太郎（逝去日：2021年12月1日）

4. 2021年11月末会員数

賛助：27、名誉：39、正会員：3297〔正：3173、院割：116、学部割：8〕合計3363（昨年比-79）

<会計>

特になし

<その他>

・地質学雑誌110巻1号以降のJ-STAGE公開PDFの保護解除及び差替作業が完了した。

・会員管理システムのクラウド化：12月2日にウェッジソフトウェア社とwebで打合せを行い、契約を締結した。今後は、1月に移行作業、2月にソフトの納品、4月頃から本格運用を開始し、5月にスタンドアロン版を停止する予定である。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

・1月31日締め切りで第13回惑星地球フォトコンテスト作品を募集中。

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

特になし

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

特になし

3) 国際交流委員会（ウォリス）

・IGC2024について韓国との交渉状況について報告があった。先方からは今年はこの以上の議論はないので、議論するならば来年以降にしたいと要望。こちらは継続議論を要望し続けることにする。両学会の共同活動について、学会間MOUの内容に沿って双方の合意の元で実施することが前提となっていることを確認した。

4) 地質標準化委員会（辻森）

・日本語版国際年代層序表を最新版（2021年10月版）に合わせて更新した（学会HP掲載）。今後はIUGS本体が複数言語に対応して、順次更新する見込み（数値の変更など軽微なものについて）。

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1) 地質学雑誌編集委員会（大藤）

(1) 編集状況報告（2021年12月10日現在）

・2021年投稿論文：42〔内訳〕論説22和文20、英文2〕、総説2（和文2）、レター6（和文6）、報告3（和文3）、ノート3（和文3）、口絵5（和文3、英文2）

査読中：23、受理済み：0

・新規特集号「球状コンクリーション」の原稿投稿が開始された。

・127巻11月号：論説1、レター2、ノート1、口絵1（39ページ）

・127巻12月号：論説3、報告1、ノート1（48ページ、校正中）

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

・編集状況の報告があった。投稿状況が昨年に比べかなり少ない（昨年比-22）状態にある。

・2019-2020年の引用数が紹介され、来年のインパクトファクターの上昇が予想される。

3) 企画出版委員会（小宮）

特になし

6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）

1) 地学教育委員会（高嶋）

特になし

2) 地質技術者教育委員会（佐々木）

・12月8日に第6回委員会（WEB）を開催し、来年3月開催予定の第2回JABEEシンポジウムの詳細企画・準備について検討した。

・あわせて、キャリアビジョン誌は74社（85掲載）の申込で、まだ原稿未提出の会社があるが催促してなんとか年内に発行することが確認された。

・キャリアビジョン誌は74社を集め、出版準備中

3) 生涯教育委員会（矢部）

特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール（松田）

特になし

5) 地質の日（矢部）

特になし

7. その他執理事会の下に設置される委員会

1) 利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（委員長天野：代理平田）
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（高嶋）
・12/19一次予選がオンラインで開催予定。3月の本選はつくばで対面開催を予定。2022年8月国際大会はオンラインでの実施が決定している。

3) 支部長連絡会議（平田）
特になし

4) 地質災害委員会（松田）
特になし

5) 名誉会員推薦委員会（佐々木）
特になし

6) 各賞選考委員会（中澤）
・12月1日募集を締め切り、選考作業を開始する。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（委員長 堀 利栄）
・12月13日男女共同参画学協会連絡会定時総

会&第20期第1回運営委員会にて磯崎会長挨拶の予定。

8) 連携事業委員会（中澤）
特になし

9. 研究委員会

1) 地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）
特になし

2) 南極地質研究委員会（委員長 小山内康人）
特になし

特になし

審議事項

1. 各賞選考検討委員会委員の選出について
・2022年度の学会各賞の応募が締め切れ、各賞選考委員会より選考検討委員会立ち上げの依頼があった。委員メンバーを検討し、打診中。小澤・柵山賞については準若手世代を加えた別委員会を設けることが望ましいとの意見が上がり、2023年度選考以降の議題として今後議論する。

2. 学会運営タスクフォース（会費変更などに伴う規則類の変更案について）

本日理事会で提案する会費変更等の方針に基づいた規則類の変更箇所を確認した。4月の理事会で規則改正案を提案する。

3. 選挙立会人の選出について
選挙開票立会人（2名）として、上原康裕会員（応用地質株式会社）、坂田健太郎会員（産総研）を候補として選出し、承諾頂いた。

4. 新設賞（功績賞、ナウマン賞、地質学雑誌特別賞）の英語名称について

継続審議。4月の理事会で提案する。

5. 理事会審議事項・資料の確認を行った
以上

2022年1月8日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています。学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます。是非ご利用ください！

	価格(白黒)	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

(単位：円)

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず、
4回掲載一括注文：10%割引
6回掲載一括注文：15%割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限りです。

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局

電話 03-5823-1150 FAX03-5823-1156

e-mail: main@geosociety.jp

